「パパラッチ（双葉社）」
2007年7月号～2008年3月号

『過ぎ去りし時間の記憶』
バックナンバー

2008年3月号

内容は次ページ

『怪獣総進撃』のポスター。1968年に東宝で公開された。久保明や田崎潤やアンドリュー・ヒューズが出演して本多猪四郎が監督した。特撮監督はウルトラマンの円谷英二で音楽は伊福部昭だ。ストーリーは、地球上の怪獣はすべて小笠原諸島の怪獣ランドに集められ研究材料になっていたが、ある日、怪獣達は恐暴性を発揮しゴジラ、モスラ、バラゴンに各都市は破壊されそうに。キングギドラとの対決が話題を呼んだ映画のポスター。

『ミンキーモモ』ポップコーン製造器。夢と魔法の国からやってきたプリンセス・モモ。御伽噺や夢物語の登場人物が暮らしている国からやってきた彼女。現代の地球では夢を見ることを忘れかけていた為に夢の国に消滅の危機が迫っていた。そこで王様は娘のモモに人々が夢や希望を取り戻せるよう使命を与える。

『ANARCHY』のCD。漢字で「亜無亜危異」と書くバンド名の由来はセックス・ピストルズの楽曲「アナーキー・イン・ザ・UK」から名づけられた。1978年結成。1979年のヤマハ主催のアマチュア音楽コンテストの「EastWest」にて優秀バンド賞、最優秀ボーカリスト賞を獲得し、1980年にシングル『ノット・サティスファイド』、アルバム『アナーキー』でビクターインビテーションよりデビュー。攻撃的な歌詞や楽曲、ファッションなどで日本の初期のパンクバンドの代表格として知られる。CDはかなりなレアもの。

『007ゴールドフィンガー』のレコード。1964年にイギリスで制作されたショーン・コネリー主演の大ヒットスパイアクションシリーズ。監督はガイ・ハミルトンで、原作はイアン・フレミング。音楽はジョン・バリー。主題歌はシャーリーバッシーだ。英国の金が大量に国外に流出しているという情報を得て、ボンド(ショーン・コネリー)はその犯人で億万長者のゴールドフィンガー(ゲルト・フレーベ)との対決を命令される。ゴールドフィンガーのやるインチキトバクを見破ったボンドは、用心棒オッドジョップに捕まり気がついたときにはゴールドフィンガーの自家用機に。スリル満点のこの映画のシングルレコードが売れに売れた。

『ラ・セーヌの星』のサインペンセット。1975年からフジテレビ系で全39話放送された。漫画が小学館の雑誌で連載された。作者は森村あすかで1789年に勃発したフランス革命の頃のパリが舞台で主人公はシテ島で花店の娘として育った美しい少女・シモーヌ。彼女が変装してラ・セーヌの星を名乗って闘う物語で、実はルイ16世の妃マリー・アントワネットの異母妹であるという設定だった。

『ゲゲゲの鬼太郎』のゲゲゲハウス。全115話も放送された人気シリーズで現代社会に生きる妖怪と人の共存共栄がポイントのアニメで、人間の横暴や環境破壊によって行き場のなくなった被害者としての立場が妖怪に置き換えられて強く打ち出されている。鬼太郎は妖怪を退治せず最終的には人間側と和解させるといったテイストの話が多くなっている。

『怒りの荒野』のレコード。1967年にイタリアで制作され東和で配給されたジュリアーノ・ジェンマ、リー・バン・クリーフ主演のマカロニウェスタン。監督はトニーノ・ヴァレリー。音楽はリズ・オルトラーニ。私生児としてこの町に生まれ、養育院で成長したジェンマ。不幸な生い立ちは彼の心に、いつか一人前のガンマンとなり見かえしてやろうという気持ちが。そして、腕利きのリー・バン・クリーフと決闘することになる。

『RCサクセション』のレコード。中学時代のユニット名は『クローバー』でその続きのバンドという事で、「サクセション」を付け足したがバンド名が長く言いづらいため「RCサクセション」となった。ボーカリストの忌野清志郎の「愛しあってるかい?」は一世を風靡した。

KAZUKIプロフィール
作家・昭和評論家・超感覚イマジネーターとして、「信長は生きていた」や「平将門首塚の謎」など奇想天外なストーリーを作るゴッド・プロデューサーである

過ぎ去りし時間の記憶

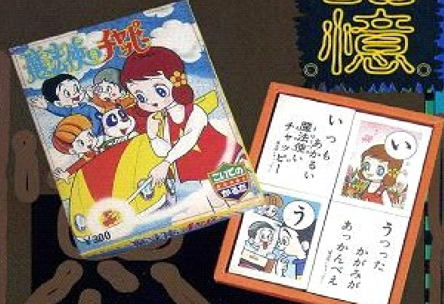
『タイガーマスク』の文具セット。1971年から『週刊少年マガジン』にて連載されたプロレス漫画。『巨人の星』や『あしたのジョー』と並んで、梶原一騎氏の代表作に数えられる。「悪役レスラーの養成機関」などを背景にした奇抜なデスマッチが魅力。同じ孤児出身で格闘技の世界に身を投じる『あしたのジョー』の主人公・矢吹丈と、本作の主人公の伊達直人は対照的。悪役レスラー・タイガーが正義のレスラーに転向したスポ根アニメだ。

『子連れ狼』のポスター。1972年に東宝で公開された。若山富三郎主演の傑作時代劇で、松尾嘉代や大木実、岸田森らが出演。製作は故・勝新太郎で原作は小池一雄。元公儀介錯人拝一刀が、息子・大五郎を乗せた箱車を押して流浪の旅をつづける大ヒットシリーズである。テレビでも中村錦之介を主役に、大ヒットした。

『君よ憤怒の河を渉れ』のポスター。1976年に大映で公開された。監督は佐藤純彌氏。出演は高倉健に中野良子・原田芳雄に池部良という豪華ラインナップ。盗まれたカメラが現職の検事の自宅から発見される。その場から脱走した検事は、無実を証明するため犯人探しの旅に出るというストーリー。このポスターはいまかなりのレアものとなっている。

『カータン』のソフトビニール人形。『ママとあそぼう！ ピンポンパン』は1966年からフジテレビで放送された。子供向けのテレビ番組で河童のキャラクターのカータンやデベロンは人気を集めた。番組中に歌われた歌も人気があり、なかでも『ピンポンパン体操』はオリコンの童謡チャートで1位になった。

『サンダーマスク』のワッペン。創通とひろみプロが制作し1972年から日本テレビ系で全26話放送された。特撮テレビ番組で手塚治虫による漫画版が『週刊少年サンデー』で連載され手塚の漫画『魔神ガロン』の実写化として企画された。



『魔法使いチャッピー』のカルタ。1972年にNET系列にて全39話放送された。東映アニメーションの魔女っ子シリーズの第5作である。人間の世界にあこがれて人間界に一家で引っ越してきたチャッピーとその一家が繰り広げるコメディー基調のアニメーションで後半は社会問題を取り上げたエピソードもあった。ドンちゃんのキャラも良かった。

『少林寺』のレコード。1982年に香港で制作され東宝東和が配給。李連杰(リー・リンチェイ)が主演した。少林寺の監督はチャン・シン・イエンだ。隋の末期、中国ではワン将軍とリー将軍が激しく対立していたが、少林寺は聖地として人々に尊敬されていた。そんなある日リーが少林寺の門前に半死半生で転がりこんできた。彼はワン将軍に父を殺され逃げてきたのだった。看病の末、元気になったリーは正式な僧になることを決意。そして、ワンへの復讐を誓うのであった。

『ラスト・ワルツ』のレコード。1980年に発売され池袋や三越広場で黒色テント劇場が開催され翌年の3月～5月には森田童子五百人劇場のコンサートが行なわれた。森田が有名になったのは真田広之と桜井幸子が共演したドラマ『高校教師』の主題歌『僕たちの失敗』だ。このレコードは現存するものがほとんどなく、激レア。

2008年2月号

過ぎ去りし時間(トキ)の記憶

アニメグッズ

早いもので、平成になってから20年目に突入する。平成元年生まれの人が成人を迎えるわけだ。

逆に言えば、昭和が終わって20年になるのだが、いまだに「昭和浪漫」は人々の心の片隅に残り、懐かしさと郷愁を醸し出している。

今回も昭和コレクターKAZUKIの膨大なコレクションの中から、厳選して懐かしいモノを紹介したいと思う。

●遊星王子のミニポスター

『遊星王子』は、宣弘社制作の特撮テレビ番組で、1958年から日本テレビ系で放送され1959年には東映制作の劇場版も公開された。

遊星と呼ばれる星からやってきた遊星王子が地球で活躍する物語で、劇場版はコスチュームが違ったり宇宙船を所有したりと違うヒーローになっていた。現在、このミニポスターはかなりのレアコレクションになっている。

遊星王子のミニポスター

●アタックNo.1の映画版ソロポスター

『アタックNo.1』は浦野千賀子原作のスポーツ少女漫画で、1968年から『週刊マーガレット』に連載されバレーボールブームの原点となった。スポーツ根性漫画で『サインはV!』と並ぶ有名漫画。

1969年からフジテレビ系でアニメ化され映画版が東宝チャンピオンまつりで放映された。写真は全4作公開された内のひとつである映画版のソロポスターだ。

アタックNo.1の映画版ソロポスター

●まことちゃんのA4版映画パンフレット

『まことちゃん』は、楳図かずおのギャグ漫画。『週刊少年サンデー』で1976年から連載が始まった。1980年にはアニメ映画化もされた。聖秀幼稚園に通う幼稚園児の主人公・沢田まことが巻き起こす「ピチクソ」等下ネタ満載のギャグ漫画は当時の子供たちに大ウケ。作者本人もKAZZとして登場してる。

「グワシ」「サバラ」「〜なのら」「まこと虫じゃ!」などの独特の言い回しは大流行した。

まことちゃんのA4版映画パンフレット

●ガンバの冒険ソフトビニール人形

『ガンバの冒険』は、1975年から日本テレビ系で全26話放送された東京ムービー制作のアニメ。

原作は『冒険者たち ガンバと15ひきの仲間』。港で開かれているネズミたちのパーティーの最中、島を支配している巨大な白イタチ・ノロイを倒す力を貸して欲しいという仲間の頼みにガンバを始めとする勇敢な7匹のネズミたちが集まり、冒険の海へと船出する。

ガンバの冒険ソフトビニール人形

●フランダースの犬の指人形

『フランダースの犬』は、イギリスのウィーダの書いた童話だが、実は全て実在している物語らしい。

ベルギー北部・フランダース地方でホーボーケンを主人公にした村がモデル。筆者がこの作品を執筆した頃にはホーボーケンにまだ風車が残っていて、アロアのモデルの女のコもいたことが確認されている。

このストーリーが書かれたのは1872年。日本語版は1908年に初めて『フランダースの犬』として内外出版協会から出版された。

フランダースの犬の指人形

●さるとびエッちゃんのミニ ぬりえ

『さるとびエッちゃん』は、石ノ森章太郎の原作漫画で、猛スピードで走り、怪力で、動物と会話できる能力を持つ猿飛佐助の33代目の子孫で小柄な小学生エッちゃんこと猿飛エツ子が巻き起こす痛快ストーリー。

『週刊マーガレット』で連載され、テレビアニメは1971年からNET系列にて全26話放送された。『魔法のマコちゃん』の後番組だが、今回はセイカから発売されたさるとびエッちゃんミニぬりえをご紹介。

さるとびエッちゃんのミニぬりえ

●ルパン三世のフィンガーポップス

『ルパン三世』は、モンキー・パンチ原作の漫画で『週刊漫画アクション』で1972年の創刊号から連載された。怪盗が主人公の漫画。

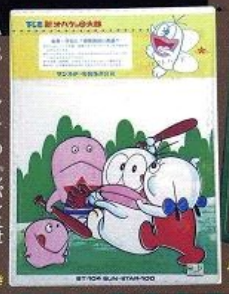
テレビアニメ化され、現在も大人から子供まで、幅広い人気を博している。TVアニメの『ルパン三世 第1シリーズ』が放送を開始。ルパン三世のフィンガーポップスはかなりのレアグッズだ。

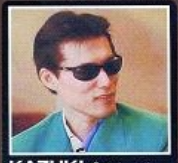
ルパン三世のフィンガーポップス

●オバケのQ太郎の下敷き

『オバケのQ太郎』は藤子不二雄が生んだオバケを主人公にしたギャグ漫画。

普通の家に住み着いた一匹の間の抜けたオバケがひき起こす大騒動を面白おかしく描き、3回にわたってアニメ化された。シリアス漫画からギャグ漫画の藤子不二雄」として認知されてゆくが本作が藤子不二雄の事実上の最後の合作作品である。今回はオバケのQ太郎の続編『新オバケのQ太郎』の下敷きを紹介。


オバケのQ太郎の下敷き



KAZUKIプロフィール

作家・ゴッドプロデューサー・昭和評論家など様々な肩書きを持つ。歴史シリーズ第3弾『KAZUKI説これが本当の都市伝説』をジーオー企画出版から発売する。公式HPは(http://www.kazuki-project.com)

2008年1月号

過ぎ去りし時間の記憶

プラモデル

今年も残すところあとわずか。12月といえば、クリスマスという一大イベントがあるが、子供達にとっては朝起きたときに枕元にあるプレゼントが唯一の楽しみ。

いまでこそ、最新のゲームやソフトがプレゼントの主流だが、昔はプラモデルが人気だった。

そもそも、プラモデルの始まりは1936年にイギリスのフロッグというライトプレーンメーカーが発売したのが始まり。シリーズ名は「ペンギン」でイギリスの戦闘機や爆撃機を1/72スケールで発売。

名前の由来は、ゴム動力で飛ぶライトプレーンに対しプラモデルは飛ばなかったから、飛ばない鳥だから「ペンギン」というシリーズ名がついた。

第二次世界大戦後、プラモデルはアメリカでブームとなった。

そこで今回は懐かしのプラモデルの箱を厳選してご紹介しよう。

写真①「シルバー仮面」

写真②「秘密戦隊ゴレンジャー」

●「シルバー仮面」(写真①)は、宮弘社が制作し、昭和46年にTBS系で全26話放送された。

特撮変身ヒーローだが、第11話より巨大ヒーロー物に変更され題名も「シルバー仮面ジャイアント」に改められた。光子力エンジンの設計図を隠した博士は次男・光二に、「アタック!」と叫ぶ事でシルバー仮面に変身する力を授けるが4話までは何故か「えい!」と叫んで変身していた。光二は柴俊夫が演じていた。

●「秘密戦隊ゴレンジャー」(写真②)は、昭和50年からNETテレビで全84話放送された、東映制作のスーパー戦隊シリーズの最初の作品である。世界征服を企む悪の「黒十字軍」と奇妙的に生き残った5人のスペシャリストを新宿の秘密基地に呼び寄せゴレンジャーを誕生させた。当時のボツ企画だった複数人ライダーの企画を再検討した結果「色とりどりの5人の戦士」という姿が今日の戦隊ヒーローを誕生させたという秘話がある。

写真③「コンドールマン」

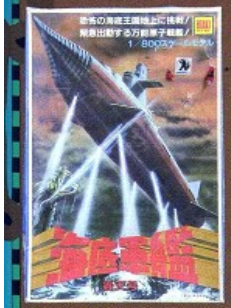
●「コンドールマン」(写真③)は昭和50年からNETテレビ系で、全24話放送された。三矢二心は、人間の悪の心から発生したモンスター一族に襲われ命を失うが、タバ老人の導きによって伝説のドラゴンコンドルの魂と一体化し「コンドールマン」となってモンスター一族に立ち向かう。主題歌の作詞は川内康範、作曲は鈴木邦彦だ。

●「宇宙の騎士テッカマン」(写真④)は、タツノコプロ制作のSFアニメで全26話放送された。「新造人間キャシャーン」や「破裏拳ポリマー」に続く、第3弾で鉄仮面をモチーフとしている。「日本沈没」等、公害などの社会問題をストーリーに絡めた作品で最終話は敵の集団ワルダスターとの決戦場で物語は終了し、その結末は描かれなかった。そしてラストシーンはワルダスター基地に向かうテッカマンの「ウオオオー!!」という、見方によってはキャスト&スタッフらの打ち切りに対する悲痛な叫びにも聞こえる絶叫で幕を閉じる。

写真④「宇宙の騎士テッカマン」

●「スペクトルマン」(写真⑤)は昭和46年に全63話放送された、ピー・プロダクションが企画、制作した特撮ヒーローで開始当初は、悪役を冠にした「宇宙猿人ゴリ」という題名であったが、その後「宇宙猿人ゴリ対スペクトルマン」を経て、最終的には「スペクトルマン」に改名された。「宇宙猿人ゴリ」が送り出す怪獣に戦いを挑む。

●「海底軍艦」(写真⑥)は1963年に公開された、東宝制作の特撮映画で怪獣映画と戦争映画の融合した作品。登場する轟天号の存在感は今でも評価は高い。一万二千年前に海底に沈んだムウ帝国の潜水艦を追って海底軍艦が到着した所はムウ帝国の女帝陛下が支配する女帝国だった。監督は本多猪四郎。高島忠夫が主演だった。


写真⑥「海底軍艦」

写真⑤「スペクトルマン」

●「ファイヤーマン」(写真⑦)は円谷プロダクションが制作し、昭和48年まで日本テレビ系で全30話が放送された「ウルトラマンタロウ」や「ジャンボーグA」同様、円谷プロ創立10周年記念番組として制作。印象に残った最終回ではファイヤーマンが宇宙に消えるという形で打ち切りになった地味な作品で主演は後のアカレンジャーの誠直也だった。

●「黄金バット」(写真⑧)は、昭和初期の紙芝居の主人公だった金色で骸骨の姿をし、黒いマントを着ていた正義のヒーローで「高笑い」とともに現われる金色のコウモリが印象的だった。昭和22年に雑誌「少年画報」で絵物語が掲載され、後に「黄金バット ナゾー編」の紙芝居になり、1966年には実写の白黒特撮映画「黄金バット」が千葉真一主演で公開された。

KAZUKIプロフィール
作家・昭和評論家・超感覚イマジネーターとして、「信長は生きていた」や「平将門首塚の謎」など奇想天外なストーリーを作るゴッド・プロデューサーである

写真⑧「黄金バット」

写真⑦「ファイヤーマン」

2007年12月号

過ぎ去りし時間(トキ)の記憶。

駄菓子屋の玩具

駄菓子の歴史は古く、江戸時代に水飴を材料に「文菓子(関西地方では雑菓子と呼ばれた)」が始まり。駄菓子は高級菓子のオマケ的な要素が高く、当時の子供達にとっては、親と一緒に買い物に行くときの楽しみのひとつでもあった。

オマケだった駄菓子はいつしか、独立した存在になり、変わりに駄菓子のオマケ的な存在として、店頭に低価格のオモチャが置かれるようになった。

現在は、数少なくなってしまった駄菓子屋。これから紹介する駄菓子屋の玩具は、いまとなっては希少価値は高いが、当時は子供のお小遣い程度で買えたもの。この写真をみていると、子ども達の笑い声が聞こえてきそうだ。

まず最初にご紹介する駄菓子屋玩具は『**正義を愛する者月光仮面**』(写真①)の大判プロマイド。

1972年に日本テレビ系で全39話放送された。原作は川内康範氏。このプロマイド、全30種類で「当たりカード」が出ると特製アルバムが貰えた。かなりのレアグッズだ。

次にご紹介するのが、『**ブンブンヘリコプターシリーズ**』のてんとうむし(写真②)。ゴムが動力のプロペラを回してブンブン飛ばして遊ぶ玩具。シリーズにはハチやカマキリ型なども有る。空き地が多かった時代、この玩具シリーズで遊ぶ子供たちは、かなり多かった。

次にご紹介するのが、『**15ゲーム**』(写真③)。色や数字を合わせるアレンジゲームでパズル要素も高く、当時のパチンコブームにもあやかり、アレンジブームの先駆けになったゲーム。頭を使うゲームということもあって、親たちの支持も集めやすかった。

その次にご紹介するのが、『**アクマイザー3**』のプロマイドシール(写真④)。

1975年からNET系で全36話放送された異形ヒーローもの。石ノ森章太郎氏の原作。主人公であるサビタンに仲間のダルニアが思いを寄せるという設定が当時からすれば衝撃的だった。プロマイドでありながらシールとしても活用することができるというのがポイント。

その次にご紹介するのがゴジラシリーズの『**大怪獣プロマイド大図鑑**』(写真⑤)。

テレビランド・プロマイドシリーズの第3弾で、ゴジラやガメラやメカゴジラなど、その種類は352枚も有る。この玩具、かなりのレアグッズで、全種類持っているという人は数少ない。

その次が『**恐竜探検隊ボーンフリー**』(写真⑥)の通園袋。

昭和51年にNET系で全25回放送された恐竜シリーズ3部作の第一弾。制作は円谷プロで、人物だけがアニメーションでメカや恐竜や背景などが特撮というユニークな作品。アニメの部分はサンライズが担当した。幼稚園児の通園前に番組が放映されていたこともあり、ちびっ子たちに人気が高かった。

最後にご紹介するのが『**仮面ライダー**』の手提げバッグ(写真⑦)。昭和46年に毎日放送と東映が制作した大ヒットシリーズ。

本郷猛こと藤岡弘が第9~10話の撮影中に事故を起こしてリタイア中に2号ライダーこと一文字隼(佐々木剛)が登場。当時の子どもたちは仮面ライダーが付いたものならなんでも欲しがった。

写真①
写真②
写真③
写真④
写真⑤
写真⑥
写真⑦

KAZUKIプロフィール
作家・昭和評論家・超感覚イマジネーターとして、「信長は生きていた」や「平将門首塚の謎」など奇想天外なストーリーを作るゴッド・プロデューサーである

2007年11月号

過ぎ去りし時間(トキ)の記憶

お面

秋といえば「祭り」です。お祭りといえば夜店。子供の頃はこの夜店で親に何かを買って貰うのが楽しみで仕方がありませんでした。なかでもお面は、どこか郷愁を感じさせるものがあり、いまも昔も子ども達には人気のアイテムです。

今回は、私のコレクションの中からお面をピックアップして記事を進めていきたいと思います。

そもそもお面の歴史は古く、縄文時代にまで遡ります。

7世紀に中国や韓国から入ってきたお面は、能や狂言に使われ、時の権力者を大いに楽しませていました。

そのお面が次第に子供の遊び道具に変化しておもちゃの面が誕生。

最初は素材も土や張り子で作ったおかめ・ひょっとこ・鬼・や動物などが主流でしたが、時を経て、いつしか月光仮面などのテレビヒーローなどを中心としたプラスチック製のお面が、夜店やオモチャ店で売られるようになりました。

そんなレアなお面コレクションのひとつめは1974年にNETテレビ系で全118話放送された子供向けの特撮番組『ロボコン』より、『ロボペチャ』のお面。原作は故・石ノ森章太郎氏で、ロボット学校に通っているロボット達が人間社会に派遣されて働きながら一人前のロボットに成長していくストーリー。このお面は雑誌の付録で紙製。ちなみにロボペチャはロボコンを愛し過ぎて注射ばかりする看護婦ロボット。

次に、ご紹介するのは『のらくろ』のお面。原作者は田河水泡氏で1931年より講談社の雑誌『少年倶楽部』に連載され、戦争により中断されたが1941年に最終回まで連載された。戦後は潮書房の雑誌『丸』に1981年まで執筆。現代のキャラクター商品のはしりともいえる書道用『のらくろ墨』や楽器『のらくろハーモニカ』などが飛ぶように売れた。ちなみに『サザエさん』の生みの親である長谷川町子氏は田河氏の弟子でもある。このお面もかなりレアだ。

さて、次にご紹介するのは『まぼろし探偵』。1957年に『少年画報』に連載された桑田次郎氏の漫画。テレビドラマでは赤い帽子に黒マスクで黄色いマフラーの少年探偵で事件が起きるとオートバイに乗って現われる。その正体は日の丸新聞の少年記者・富士進という設定なのだがこのお面はかなりレアな一品だ。

覆面モノといえば、必ず上げられる正義の味方が『月光仮面』。川内康範原作の冒険活劇ヒーローで1958年にテレビドラマとして製作され、後に映画化された。北海道函館市松風町に月光仮面の像がある。白いターバンと覆面、サングラスに白いコスチュームとマントの出で立ちでオートバイに乗って颯爽と現われ、悪を蹴散らすその姿に当時の子供達は魅了された。

その次はフジテレビで昭和46年から全63話放送されたヒーロー・プロダクション制作の特撮ヒーロー番組『スペクトルマン』。

だが当初は『宇宙猿人ゴリ』という題名でその後『宇宙猿人ゴリ対スペクトルマン』になり『スペクトルマン』と改題された。このお面はカラフルで当時は人気が高かった。

その次は当時の未来もの。30世紀のタイムパトロール隊のジェッターが、悪人ジャガーを追跡中にタイマシン同士の衝突事故で、20世紀に落下してしまう『スーパージェッター』。タイムマシンの故障で取り残されたジェッターは犯罪捜査に協力することになるのだが、このお面もレアだ。

最後にご紹介するのが、横山光輝氏原作・週刊少年サンデーで連載されていた『飛騨の赤影』をフジテレビ系で昭和42年から全52話放映した『仮面の忍者赤影』。

このお面は目の部分を上げ下げできるのだが、メガネを取った姿は正直、カッコイイとはいいきれません。

子供にとって、お面はお祭りの想い出や当時の流行を映し出すばかりでなく、そのとき一緒に行った家族との思い出。子供にお面をねだられたら是非買ってあげてください。

ロボペチャ

のらくろ

月光仮面

まぼろし探偵

スペクトルマン

仮面の忍者赤影

スーパージェッター

KAZUKIプロフィール
作家・昭和評論家・超感覚イマジネーターとして、『信長は生きていた』や『平将門首塚の謎』など奇想天外なストーリーを作るゴッド・プロデューサーである

2007年10月号

過ぎ去りし時間（トキ）の記憶

レコード（主題歌）

蓄音機を発明したのはトーマス・エジソンだというのが通説だが、それ以前にレオン・スコットやシャルルクロスらがフォノトグラフという油煙のススを付けたシリンダーを回転させ、ブタの硬毛をシリンダーに当てて音を吹き込む技術を開発していた。それを蓄音機として販売したのがエジソンである。

その後、エミール・ベルリーナによる円盤型レコードの発明から始まり、アメリカ・コロンビア・グラフォフォン社が電気式録音によるレコードを発売。LPレコードの発売やデジタル録音レコードの発売を経て、現在のコンパクトディスクに至った。

CDやMDが主流の現在において、懐古主義的思想からか、改めてレコードが再評価され始めている。中古レコード店には、いまも、レコードならではの音を求める多くのファンが来店している。

今回は、懐かしいレコードジャケットコレクションを厳選してご紹介したい。

★ピンクパンサー4

ピンクパンサー4

ユナイトの配給で監督はテレンス・ヤング。初代のジェームズ・ボンドに選ばれたのはショーン・コネリー。2代目はロジャー・ムーア。

フロリダから発砲されたロケットが、何物かの妨害電波によって軌道を狂わされる。ボンドはドクターノオが所有するクラブ・キイ島に潜入するのだが……。

★八つ墓村

1977年に東宝で公開。四百年にわたる怨念が息づく生地を訪れた青年が続発する血腥い殺人事件にまきこまれる姿を描くミステリー映画。

1978年公開。監督はブレイク・エドワーズ。主演がピーター・セラーズ。

パリ警察の名物男・クルーゾー警部が、米と仏のマフィア戦争のとばっちりを受けその命を執拗に狙われる。ラストは香港を舞台にした大活劇になって行く。007シリーズを意識した作品でクルーゾーの変装を全面に押し出していた。

★007ドクターノオ

007ドクターノオ

原作は横溝正史、脚本は「八甲田山」の橋本忍。監督は「震える舌」の野村芳太郎。「たたりじゃ～」の台詞がドリフのギャグでも演じられ大ブレイクした。炎上するラストシーンも壮絶。

★太陽がいっぱい

1960年公開。ルネ・クレマンが監督しアラン・ドロンが天使の顔をして悪人を演じるサスペンス・ドラマ。ニーノ・ロータの素晴らしいメロディーと青空の海が綺麗で、完全犯罪一歩手前で捕まるラストシーンには圧倒。

太陽がいっぱい

八つ墓村

★バレンタイン・キッス

1986年に国生さゆりがおニャン子クラブ在籍中に出したソロデビュー曲。バレンタインデーの前日となる2月13日をテーマにした歌。サビの部分では「バレンタインデー・キッス」と繰り返されているが何故か曲のタイトルは「バレンタイン・キッス」である。

バレンタイン・キッス

★子連れ狼（萬屋錦之介版）

日本テレビ系。小池一夫と小島剛夕の「子連れ狼」が原作。三部に分けて1973年～1976年の約4年間に渡り放映された。

放映が行なわれる前に、若山富三郎主演で映画化。第1部・第2部で主人公・拝一刀の息子・大五郎を演じたのは西川和孝。「ちゃん」と呼ぶシーンが評判を呼び、ボンカレーはこの親子をパロディにしたCMを作る。「刀に扮した笑福亭仁鶴が大五郎に"ボンカレーが出来るまで3分間待つのだぞ"と言うセリフが秀逸だった。

子連れ狼

★俺たちの旅

70年代の永遠の青春ドラマ。日本テレビ系。ユニオン制作。昭和50年から全46回放送された。原案脚本は鎌田敏夫氏。音楽はトランザム。主題歌の俺たちの旅は小椋佳が作り中村雅俊が歌って大ヒット。

俺たちの旅

★それ行けカッチン

1975年にTBS系で放映されたTVドラマ。田舎育ちの女子児童が巻き起こす不思議な騒動を描くあばれはっちゃくの少女版。原案や脚本は「ウルトラマン」や「ウルトラセブン」の脚本家の佐々木守氏。主演は名子役として知られた斉藤こず恵。真野響子や名古屋章などが脇を固め、SFファンタジーとしても評価が高い。主題歌はかなり印象に残る。

それ行けカッチン

KAZUKIプロフィール
作家・昭和評論家・超感覚イマジネーターとして、「信長は生きていた」や「平将門首塚の謎」など奇想天外なストーリーを作るゴッド・プロデューサーである

2007年9月号

過ぎ去りし時間（トキ）の記憶

ビデオパッケージ

意外かもしれませんが、世の中には「ビデオパッケージコレクター」といわれる人が存在します。かくいう私もそのうちの1人です。

では、いったいこのビデオパッケージなるものにどんな価値があるのかというと、それは古本マニアが絶版された古書や古い漫画を集めるのに似ています。希少価値の高い漫画などは、一冊10万円以上で取引されているものがありますが、ビデオパッケージに至っても同じことがいえるのです。

基本的に一番価値が高いのが初版で紙の箱に入っていて定価が8800円～19800円までのビデオパッケージです。その次はプラスチックケースに入っているビデオで定価は1万以上のモノ。で、その次がレンタル専用のパッケージで定価表記が無いモノといった順です。再販ビデオパッケージはやはり初版のモノと同じように作られていてもあまり価値がありません。

また、このビデオパッケージ、色彩のこだわりも含め、かなりアートなデザインを施しており、映画の場面などもインパクトがあるシーンを抜き出していて、芸術性の面でもかなり優れていると思います。コレクションにして並べてみると、なかなかかいいですよ。

さて、そんな私のビデオパッケージのコレクションの中から厳選して10作品をご紹介したいと思います。

昭和残侠伝人斬り唐獅子

昭和残侠伝 人斬り唐獅子

1969年に東映で公開された高倉健扮する花田秀次郎やその妻雅代役に小山明子を起用した作品。7年ぶりに出所して浅草に帰ってきた秀次郎。そこでは皆川一家と東雲一家が争っていた。東雲一家に数多くの仲間を殺された秀次郎は宿敵・東雲一家と対決する。映画の場面を引き立てるこのビデオパッケージは何とも重みがあります。

正義のシンボル コンドールマン

正義のシンボル コンドールマン

原作は月光仮面の川内康範氏でプロデューサーは私も個人的に交流がある仮面ライダーの平山亨氏。主人公は三矢一心氏で後にキカイダー01の主役に抜擢された池田駿介である。1975年にNETテレビ系で全24話放送されたこのビデオパッケージは私のコレクションの中でもレアに当たる一品です。

ビーバップハイスクール

ビーバップハイスクール

1985年に東映で公開されたご存知、清水宏次朗や仲村トオルが主演して中山美穂が共演したツッパリ学園モノビデオ。コンビが学園アイドルの今日子ちゃんにアタック合戦を開始し、敵対する戸塚水産の親玉のヘビ次やネコ次を倒すこのビデオ「俺たちの記念日」はレアな一品。ビーバップもそうですが初版のビデオパッケージは当時は全て紙の箱に入っていました。

トラック野郎 熱風5000キロ

トラック野郎 熱風5000キロ

1979年に東映で公開された菅原文太こと星桃次郎と愛川欽也の金造が暴れ回る人情トラックアクション喜劇。浅間山を疾走しているとパトカーがやってきて桃次郎は当て逃げの犯人と間違われる。当て逃げなんて覚えがない桃次郎。結局、桃次郎が腹痛の時に頼んだ代走屋の仕業と分った。この映画も全て初版のビデオパッケージは紙の箱に入っていて定価は全て9800円以上でした。

スケバン刑事

「スケバン刑事」

1987年に東映で公開された南野陽子こと麻宮サキに吉沢秋絵や相楽ハル子に浅香唯が共演。2代目スケバン刑事を解任された麻宮サキは平和な学園生活を送っていたが、和夫という少年の落とし物を拾ったことからある事件に巻き込まれ地獄城の調査を依頼されることに。そこに突然現われた3代目スケバン刑事の風間唯と一緒に戦う。

このビデオパッケージはバックの炎とオレンジの背景が絶妙なコントラストを描いている私の好きなビデオパッケージのひとつです。

レッドバロン

レッドバロン

日本テレビのスタッフが企画し大手広告代理店・宣弘社が製作。1973年に日本テレビ系で全39話放送された特撮テレビ番組。しかし、メインスポンサーだった日本空気販売の倒産により3クール(9カ月)で打ち切りとなってしまった。悪の組織「鉄面党」に立ち向かう為に紅健一郎博士が製作したスーパーロボット・レッドバロンを操縦し立ち向かうというストーリーの同作品。定価4000円以下で出てるビデオパッケージは再販で初版はやはり箱入りのパッケージ。

男はつらいよ 寅次郎わが道をゆく

男はつらいよ 寅次郎わが道をゆく

1978年に松竹で公開された渥美清扮する車寅次郎や妹のさくら役に倍賞美津子が出演するロングセラー。

この寅さんシリーズは初版の箱入りビデオパッケージの他に松竹から出たプラスチック入りの初版のパッケージも存在。

仮面ライダー

仮面ライダー

故・石ノ森章太郎氏が原作し、毎日放送系で放送された仮面ライダー。本郷猛役の藤岡弘や一文字隼人役の佐々木剛が主役で敵の幹部には死神博士役の天本英世が出演していました。またマリ役には山本リンダ、ひろみ役に島田陽子らが共演。悪の組織ショッカーと闘うストーリー。仮面ライダーの初版パッケージもやはり箱入りで過去10種類が発売されていました。

人造人間キカイダー

人造人間キカイダー

ドリフの「8時だヨ～全員集合」が裏番組だったキカイダー。主題歌を歌ったのは海のトリトンの秀夕木で大好評でした。

その一方でキカイダーの左右非対称のデザインや中身が透ける部分が気持ち悪いと当初はかなり評判が悪かった面も。1972年にNET系で全43話放送されたこのキカイダー、初版のビデオパッケージは箱入りとプラスチックと2種類が発売されていました。

網走番外地

網走番外地

1965年に東映で制作。高倉健や丹波哲郎や嵐寛寿郎が主演。網走刑務所に二人一組の手錠につながれた新入りの囚人たち3人を中心に脱獄計画が進められるというストーリー。この映画の初版のビデオパッケージも箱入りでこのパッケージのデザインは健さんファンじゃなくても感動するぐらいカッコいいです。

その他、ビデオパッケージは多種多様に富んでいて、集めてみると、なかなか楽しいですよ。

KAZUKIプロフィール
ゴッドプロデューサーとして様々なメデイアに登場中の謎の大阪人。市井の様々な人間を観察するかたわら、特殊な能力使った歴史小説も展開。昭和評論家でもある。著書に『平将門首塚の謎』（ジーオー企画）等がある。
URL：//www.kazuki-project.com

2007年8月号

過ぎ去りし時間(トキ)の記憶

ソフビ(S40年代)

平成19年現在、人々は様々な筆記具を使うようになった。いや、もしかしたら筆記用具すら使わない時代が到来したのかもしれない。

パソコンの普及が著しい現在、恋文すら手書きではない。いまやメールや絵文字が主流の世の中になってしまった。

いまからわずか20年前、筆記用具のメインは「鉛筆」だった。いまでこそ手にする機会は多少減ったが、濃さや硬さ、形状が豊富にあり「書き方」の授業でも鉛筆による得手不得手が競われ、それが評価の基準になった。

鉛筆の歴史は古く1564年、日本でいえば、戦国時代にイギリスで始まったといわれている。その当時の日本はといえば、織田信長が暴れまわっていた頃だから、諸外国との文明格差を感じてしまう。

そうはいっても、ヨーロッパ諸国でさえも鉛筆が筆記用具の主流に躍り出るのには時間がかかった。

当初は映画なんかに出て来るインクビンのインクをいちいち付けて書く羽ペンが上層階級の筆記用具の主流。

しかし、庶民はインクビンを持ち歩かなければならない手間を煩わしいと思っていた。当時からすれば紙は貴重。失敗が許されない状況下で、ある意味インク書きはプレッシャーでもあった。うっかりインクをこぼしてしまったりすることも悩みの種であった。

鉛筆の始まりについて話を戻そう。イギリスに羊飼いがいて仕事の最中に地面に転がっている石みたいな鉱物を見付けた。真っ黒で、擦ると黒い線が書けた。この鉱物は自然に存在する純粋な「黒鉛」だった「これで字がかけるぞ!」と思いついた。

これが鉛筆の誕生だといわれている。

鉛筆に替わって黒鉛を使用した筆記用具として登場したのがシャープペンシル。略してシャーペン。カタカナの名前ゆえに海外生まれかのように感じるが、歴とした日本生まれの商品。「大手電機メーカーの「シャープ」の創設者・早川徳次氏の発明品。早川氏は明治生まれの金属細工職人だった人。21歳の頃、「繰り出し鉛筆」という子供用のおもちゃをヒントにして考案した。

最初にアイデアを具現化したものが大正4年(1915年)に誕生した「早川式繰出鉛筆」。それが現在のシャーペンに発展した。

書く物が発展すれば、消す物が発展するのは自然の流れ。

18世紀のイギリスでは消しゴムが誕生するまでパンを使って消していた。1770年イギリスの化学者プリーストリーが天然ゴムで鉛筆の字が消せることを発見。その2年後にイギリスで世界最初の「消しゴム」が発売された。

『原始少年リュウ』は週刊少年チャンピオンに連載された石森章太郎の漫画でアニメ。昭和46年に全22話TBS系で放送された。猿人ペティに育てられたリュウが、ラン、ドンを連れて母を捜す苦難と戦いの旅に出るというストーリーでオープニングテーマ「原始少年リュウが行く」は水木一郎が歌った最初のアニメソング。

『アイアンキング』は昭和47年にTBS系で全25話放送。大和朝廷に滅ぼされた不知火一族が巨大ロボを操って破壊活動を始め、静弦太郎と霧島五郎が不知火一族の討伐へと向かうが五郎は国家警備が極秘に開発した巨大戦士・アイアンキングに変身する能力を持っていた。特撮ヒーローから今回の懐かしグッズは三菱鉛筆から発売されたアイアンキングの鉛筆!

『風雲ライオン丸』は昭和48年からフジテレビ系で全25話放送された。ピー・プロダクション制作の特撮テレビ番組で快傑ライオン丸の後番組だ。時は戦国時代に西日本の地下に潜むマントル一族が日本征服を企み地虫忍者を使って町を滅ぼしていく。そんな中、若き忍者弾丸子丸の兄もマントル怪人の手にかかり息絶えた。たった一人の兄を殺された弾子丸は打倒マントルを決意。父から学んだ秘術弾丸(ロケット)変身を用いてライオン丸に変身するという特撮時代劇ヒーロー。

『恐竜大戦争アイゼンボーグ』は昭和52年に全39話テレビ東京系で放送された特撮・アニメ番組で円谷プロが製作した。7千万年前に絶滅したはずの恐竜たちが、超能力を持って蘇り、人類に宣戦布告。事故で重傷を負いサイボーグとなった立花愛と善の兄妹は戦闘マシンを使って恐竜軍団に立ち向かう。立花兄妹はアイゼンクロスで合体することによりアイゼンボーグマンに。

『グレートマジンガー』は昭和49年からフジテレビ系で全56話放送された。東映動画製作のロボットアニメで永井豪とダイナミックプロで作り上げたマジンガーZの続編でマジンガーZの最終回に初登場した兜剣造博士は父十蔵博士の手により、サイボーグとして蘇り、ミケーネ帝国との戦いにそなえ父十蔵の設計したマジンガーZをパワーアップさせたグレートマジンガーを製作し操縦を剣鉄也に任せてミケーネ軍団と闘うストーリー。

『ミラクル少女リミットちゃん』ひろみプロダクションで製作されたサイボーグアニメ。小学4年生の夏休みに飛行機事故で瀕死の重傷を負った西山リミットは科学者だった父親によりサイボーグとして再生。日常のトラブルを超能力で解決する1973年にNET系で東映動画の魔女っ子シリーズの第6弾として全25話放映された。

KAZUKIプロフィール
ゴッドプロデューサーとして様々なメデイアに登場中の謎の大阪人。市井の様々な人間を観察するかたわら、特殊能力を使った歴史小説も展開。昭和評論家でもある。著書に『平将門首塚の謎』(ジーオー企画)等がある。
URL:://www.kazuki-project.com

2007年7月号

過ぎ去りし時間（トキ）の記憶

ソフビ（S40年代）

セルロイドが人気があった昭和40年、アメリカの化学会社がソフビの材料を開発した。その頃、日本で初めて20センチぐらいの人形を作ったのが「マルサン」という会社。この人形が現在、マニアの間で言われているスタンダードサイズ。

当時の価格は2000円前後と高価だったが飛ぶように売れた。その理由は子供にとって手に持って遊びやすかったということと、恐竜ブームの波に乗ったこと。

また、ウルトラQやゴジラの放映によって、異形の怪獣に対する畏怖や憧憬が、昭和40年当時の子供たちのソフビブームを後押しした。

この頃はゴジラのプラモデルが売れていたのだが、ソフビは壊れにくく造形表現にも優れていた。

ソフビを開発した当時、造形職人は非常に少なく、名古屋の瀬戸物を作っていた造形師にその作業を依頼した。そのような苦労の結果、マルサンから発売されたのがウルトラQの6体（ゴメス・ゴロー・ガラモン・ペギラ・パゴス・カネゴン）。

ソフビ会社もマルサンからマルザンそしてブルマァクへと次々にメーカーがソフビに参入。

人形も当初は、ゴジラなどのグロテスクな怪獣を題材にした可愛いユーモラスのあるキャラクター作りが中心であったが、心に、より人間的な怪人や星人に移り変わって行った。

また、ソフビの歴史を語る上でにかかせないは色や色彩。色にこだわり、インパクトをつける為にメタリックスプレーをも使ったりもした。

子供に対して商品を売るには「原色」へのこだわりが大切。ソフビにはとにかく派手な色が使われた。当時、子供たちの間で人気があったカード図鑑のタイトルも『原色怪獣怪人大図鑑』と銘打たれ制作者サイドの色に対するこだわりがうかがえる。

安全なオモチャとして認知されたソフビ。子供向けばかりでなく幼児向けのミニシリーズも発売され、世の親たちから絶大な支持を受けた。持った時に優しさを感じてもらうため、丸みを帯びさせる工夫をし、60円という値段で販売。

平成19年現在、当時ソフビで遊んでいた子供たちが父親になり、自分の子供のオモチャに購入され、ソフビは再びブームになっている。

怪獣はウルトラマンで、怪人といえは昭和43年に登場し一世を風靡した仮面ライダーだ。ボビーのソフビでマスクが取り外し出来るので当時は人気があった。

ウルトラマンは昭和41年にTBS系で全39話放送。第8話の『怪獣無法地帯』に登場した怪獣王者レッドキング。無人島の多々良島に住んでいる恐竜とキングコングを合わせたような怪獣でかなり凶暴。

ウルトラセブンは昭和42年にTBS系で全49話放送。第2話『侵略者を撃て』に登場バルタン星人は故郷のバルタン星を核実験により失い生き残った宇宙の放浪者で宇宙忍者として強烈な電波音で登場。

ウルトラマンの34話『空の贈り物』に登場した怪獣で正体は東京に落下した赤い隕石。普段はずっと寝ている怒け者怪獣だ。

KAZUKIプロフィール
作家・ゴッド・プロデューサー・昭和評論家など様々な肩書きを持ち声優SIZUKUをプロデュース！妖怪百鬼夜行やタクシーのギャグコラムなど数多くの雑誌のコラムを連載し薬師協会や神田『海人』の総合プロデューサーでもある

ウルトラマンは昭和41年にTBS系で全39話放送された。24話『海底科学基地』に登場したグビラ。

ウルトラマンAは昭和47年にTBS系で全52話放送。大蛾超獣アリブンタは地底超人ギロン人に操られた超獣でブルマァクから74年に2種類発売された。

ウルトラマンの最終話『さらばウルトラマン』に登場した史上最強の怪獣ゼットン。謎の宇宙人が育てた一度はウルトラマンを倒した最強宇宙怪獣で光線兵器で完全武装している。

協力／SIZUKU・溝上英範・川崎化工株式会社